

21 世紀の生命を育む

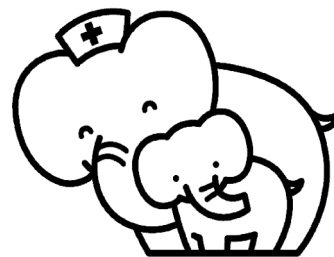
はしもと小児科

〒954-0112 見附市上新田町 449-7

TEL 0258-61-2400, 予約専用 61-2401, FAX 61-2402

<http://www.mynet.ne.jp/hasimoto/>

院長 橋本尚士：新潟大学医学博士，日本小児科学会認定小児科専門医，日本アレルギー学会認定アレルギー専門医
日本小児感染症学会推薦インфекションコントロールドクター（感染制御医：ICD）



ぞうさん通信 2010.8.3

はしもと小児科ホームページ <http://www.mynet.ne.jp/hasimoto/>

メールマガジン「ぞうさん通信」発刊中。上記 HP よりお申し込みください。

インフルエンザワクチン先行き不透明

先般「ぞうさん通信 2010.6.29」でお知らせしましたが，2010-11 シーズンはインフルエンザワクチンの小児への接種量が増量される見込みでした。従来，1回の接種につき1歳未満には0.1ml，1-6歳未満には0.2ml，6-13歳未満には0.3mlを2回接種していましたが，効果が低くなる場合があると指摘されていました。HHOの推奨する用量は，1回の接種につき3歳未満には0.25ml，3-13歳未満には0.5mlを2回接種です。独立病院法人国立病院機構がこの用量による臨床試験を全国の8医療機関で実施し，既に効果が確認されています。これを受けて，日本国内のワクチンメーカー4社は，2010年4月に接種量の変更申請を行いました。

ところが，2010年7月7日，厚生労働省医薬食品局審査管理課からワクチンメーカー4社が呼び出しを受け，今シーズンの小児への接種量の変更承認は行わない旨の口頭連絡があったそうです。承認を見合わせる理由などの詳細については，別途文書で連絡されるようです。

接種量変更が当初の予定通り行われた場合には，13歳未満の小児におけるインフルエンザワクチン必要量は前シーズンの約2倍になる見込みでした。当院で試算したところ，接種希望者の数と年齢構成が昨シーズンと同じと仮定した場合には，ワクチン必要量（成人+小児）が1.7倍になる見込みでした。

新型インフルエンザウイルスは鶏卵での増殖が不良なため，製造量を大幅に増やすことは困難です。新型インフルエンザの流行に備え，今シーズンは前シーズン比3割増のインフルエンザワクチンが製造される予定です。もし，小児への接種量の変更が当初の予定通り実施された場合には，ワクチン不足に陥ることは必至でした。今回，変更が中止されたため，ワクチン不足は回避されそうです。

7月28日，厚生労働省はインフルエンザ対策担当課長会議で，(1)今シーズンのワクチンは新型，A香港型，B型の混合ワクチンのため，昨シーズンのように新型ワクチンと季節性ワクチンを別々に接種する必要はない，(2)接種回数は昨シーズンと同じく13歳以上は1回，13歳未満は2回，(3)製造予定量は国内4メーカー合計で最大約5800万人分（13歳以上の接種量で換算）の見込みで，需要は最大5340万人分と推計されるので十分量が確保される予定，(4)優先接種対象者などは定めない，(5)昨シーズンは国が接種料金を一律に定めたが，今シーズンは市町村ごとに決定する，(6)低所得者（住民税非課税世帯）の接種費用の減免措置は継続する，などの事業案を公表しました。

上記の事業案を実施するにあたっては予防接種法の改正が必要ですが、参議院選挙の影響により継続審議になったままです。例年、10月初旬にインフルエンザワクチンの接種を開始していましたが、現在のところ改正案成立の可否、時期を含め先行きは不透明です。

今後どうなるのか、私たち医療機関側も心配しています。新しい情報が入ったら逐次お知らせする予定ですが、接種開始時期、接種料金などは直前になるまで分からない可能性が大です。

ぞうさん通信2010.8.3, 見附市上新田町449-7 はしもと小児科, 院長 橋本尚士
新潟大学医学博士, 日本小児科学会認定小児科専門医. 日本アレルギー学会認定アレルギー専門医
日本小児感染症学会推薦インфекションコントロールドクター (感染制御医:ICD)